

基礎日本語 A		講義	非常勤講師 細島 大	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22100101	

1. 授業のねらい・概要

本授業は留学生を対象とし、大学での勉学や日常生活において必要とされる基本的な日本語文法の修得を目指すものである。前期の「基礎日本語 A」では、助詞をはじめとして、時間の表し方、受身文や使役文などの文の形、授受の表現、否定文や疑問文の作り方などを、基礎から順に学修する。また、毎時の小テストを通して漢字や語彙の力も高める。

2. 授業の進め方

毎時、授業の冒頭で小テストを実施する。小テストの内容は、事前（前週）に配布するプリントの中から、漢字・語句・文法事項（慣用句・助詞・動詞の用法）などを組み合わせて出題する。また、授業は講義・演習を組み合わせながら、適宜指名して文章の音読や問題の解答を答えてもらうので、学生一人ひとりの主体的な参加が求められる。各回の内容は下記「授業計画」に沿って進めるが、テーマの難易度によってはリクエストや状況に応じて一部変更する場合がある。

3. 授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方・概要）	9. 直接受身文（受ける立場の表現）
2. 助詞の基本	10. 間接受身文（影響を受ける表現）
3. 格助詞①（対象を表す）	11. 使役文・使役受身文（させる・させられる表現）
4. 格助詞②（手段・原因・根拠・情報源を表す）	12. 授受①（あげる・もらう・くれる表現）
5. 格助詞③（状況を表す）	13. 授受②（応用表現・会話での使い方）
6. 並列助詞（「と・や・か」を使った表現）	14. 否定文（～ない表現）
7. テンス（過去・現在・未来の表現）	15. 疑問文（応用表現・会話での使い方）
8. アスペクト（進行・完了・習慣の表現）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎時小テストを実施するので、事前に配布するプリントの予習に1時間程度、また授業で配布したプリントの内容を復習し定着を図るのに1時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時実施する小テスト及び提出物や試験については、採点后返却し解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

基本的な日本語文法について理解し、正しく表現することができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（50%）、小テスト（30%）、提出物及び授業への取り組み姿勢（20%）とする。

8. テキスト・参考文献

毎時プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

- ・語学学修は、日々の積み重ねが重要である。授業には、遅刻・早退することなく出席すること。
- ・授業には、十分な準備学修（予習・復習等）を行った上で臨むこと。
- ・指示があるまでAIや翻訳アプリを使用しないこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。